

# 医学教育分野別評価

岐阜大学医学部医学科

年次報告書

2025（令和7）年度

評価受審年度 2021（令和3）年

2025年8月

岐阜大学医学部



医学教育分野別評価 岐阜大学医学部医学科 年次報告書  
2025（令和7）年度

医学教育分野別評価の受審 2021（令和3）年度

受審時の医学教育分野評価基準日本版 Ver. 2.33

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36

はじめに

本学医学部医学科は、2021年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2022年10月1日より7年間の認定期間が開始した。評価結果のうち、特に部分的適合と評価された項目を中心に、次回の受審までに改善に努める予定である。今回、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36を踏まえ、2025年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2024年4月～2025年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.36の転記は省略した。

本学医学部医学科では、医学教育分野別評価（2巡目）受審後に「認証評価対応会議」を設置し、医学教育分野別評価における指摘事項に対する検討、実施及び進捗管理を行うこととした。

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 使命を、学生や教員など教育の関係者が十分理解できるように明示すべきである。
- ・ 医療と保健に関わる分野の関係者にその使命を十分に周知すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

使命等については、シラバスに記載するとともに、1年次初期体験実習において説

明し、学生に周知した。また、見学先である外部の医療と保健に関わる施設に対し、意識して記載した説明文を作成し周知した。

医学部憲章及び 3 つのポリシーの見直しを行う予定である。教育プログラム評価委員会を通じて外部の意見を聴取する機会を設け改善に繋げる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1. 1-1 初期体験実習学生説明用資料
- ・ 資料 B1. 1-2 初期体験実習施設説明用資料

## 1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 最新の医学研究の動向を踏まえて、弾力的に教育プログラムを改変している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教授会でカリキュラムのあり方を審議検討し、テュートリアル教育の改変を行い、新カリキュラムを導入することとした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 2-1 第 4 回医学科教務厚生委員会記録
- ・ 資料 Q1. 2-2 第 1 回医学科カリキュラム委員会記録
- ・ 資料 Q1. 2-3 第 2 回医学科カリキュラム委員会記録

## 1.3 学修成果

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 使命としての医学部憲章に基づいて学修成果を定めている。

改善のための助言

- ・ 学修成果はシラバスやホームページに掲載されてはいるが、学生や教員に十分に浸透させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 卒後臨床研修終了時の学修成果として「初期臨床研修の行動目標」をシラバスに記載しているが、現行の「臨床研修の到達目標（2020年度版）」を明示して卒業時の学修成果と関連づけることが望まれる。
- ・ 医学研究に関して目指す学修成果をより明確に定めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

シラバスはPDF化すると同時に授業では随時QRコードでも表示した。小型化したポートフォリオは白衣のポケットに入り、携帯性が高まった。電子版は一部の診療科で試行運用を開始した。

探求心・研究力育成を目的としたプロジェクト基盤型学習の導入のトライアルを令和7年度から段階的に導入する。その過程で、医学研究に関する学修成果の策定を検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-1 授業案内 2024 上巻
- ・ 資料 Q1.3-2 授業案内 2024 下巻
- ・ 資料 Q1.3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」
- ・ 資料 Q1.3-4 電子ポートフォリオの使い方～学生用～
- ・ 資料 Q1.3-5 電子ポートフォリオの使い方～指導医用～
- ・ 資料 Q1.3-6 第1回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 Q1.3-7 第1回カリキュラム改革検討WGメモ

#### 1.4 使命と成果策定への参画

##### 基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と学修成果の策定には、学生や教職員など、教育にかかわる主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会委員長が学生自治会の幹部と懇談し、テュトリアル教育についての学生の自主的アンケートデータを受け取り意見交換し、新カリキュラムを導入の論拠とした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B1. 4-1 学生の自主的アンケート調査 (テュトリアルコアタイム)

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者代表など、広い範囲の教育の関係者から意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部憲章・使命等について、教員・学生にアンケートを実施し、その結果を企画委員会、教務厚生委員会及びカリキュラム委員会で審議する予定である。

使命と目標とする学修成果策定の論拠として、他の医療職、地域住民等に対してのアンケート調査実施を検討する。

## 2. 教育プログラム

### 2.1 教育プログラムの構成

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 先進的に導入したテュトリアル教育を活用して自己主導型学習を推進していることは評価できる。
- ・ 新たに反転授業を取り入れた講義を開始している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

テュートリアル教育の見直しについて教育関係の委員会を中心に検討を行い、令和7年度からの発展的な終了を決定し、新カリキュラムを導入することとした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ Q1.2-3 第2回医学科カリキュラム委員会記録

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 生涯学習につながるよう、テュートリアル教育による自己主導型学習を推進している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

探求心・研究力を教員と学生がともに活動し開発するプロジェクト基盤型学習の導入のトライアルを令和7年度から段階的に導入することとした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-6 第1回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 Q1.3-7 第1回カリキュラム改革検討WGメモ

## 2.2 科学的方法

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 「テュートリアル選択配属」や約30人が参加している「学生研究員制度」によって科学的手法の原理や医学研究の手法を教育していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 全診療科の臨床実習においてEBMの活用を推進すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

4年次臨床推論実習においてEBM教育を推進するため、バーチャル授業と織り交ぜたEBM教育を新たに導入した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 2-1 4 年次臨床推論実習

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 東海国立大学機構に経営統合した名古屋大学と教育の共用化を実施しており、生化学、脳神経内科、ライフサイクル授業などのカリキュラムに参加できる機会がある。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

名古屋大学との科目連携の状況について両大学においてアンケートを実施し点検を行った。東海国立大学機構の医学部連携ワーキンググループにおいて議論し、6科目での連携を確認した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 2-1 東海国立大学連携WG担当者一覧
- ・ 資料 Q2. 2-2 授業連携に関するアンケート結果
- ・ 資料 Q2. 2-3 名古屋大学との科目連携報告

## 2.3 基礎医学

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 臨床医学の修得、応用に必要な基礎医学の知見を理解できるようにカリキュラムを整備して教育を実践している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床医学と基礎医学のつながりを理解させる臨床医による特別講義を導入した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 3-1 臨床医特別講義等

- ・ 資料 B2. 3-2 臨床講義日程表

## 2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための助言

- ・ 6年間を通じて行動科学や医療倫理学の教育を体系的に実施すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

脳神経内科では3年生、5年生、6年生に対し、継続的に「医師の職業倫理」「研究倫理」「臨床倫理」に対する講義及び臨床実習を日本臨床倫理学会上級認定士の2名が中心となって実施した。

地域医療に関して、社会医学や医療人類学的な視点より、1年生では医学概論で地域医療と医療人類学、5年生では臨床講義の「地域医療」授業で臨床実習における様々な出来事を人類学的な他者の視点での自己分析を行動科学の部分も踏まえて実施した。今後はさらに4年生の臨床実習前に「臨床倫理」に関する講義を導入する予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 3-2 臨床講義日程表

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 科学技術や臨床医学・医療の進歩、将来の予測、人口動態や文化の変化などを考慮して、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを調整、修正することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療体験実習施設を追加した。臨床講義においては、行動科学、社会科学及びLGBTQ+等、多様性に関するテーマを追加した。次年度以降もACPなど地域社会のニーズに対応した内容を追加する予定である。

医療倫理学の講義において、腎・透析治療のガイドラインを扱うなど最新の医療情勢を反映させる予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 4-1 地域医療体験実習施設一覧
- ・ 資料 B2. 3-2 臨床講義日程表

## 2.5 臨床医学と技能

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 研修医が「屋根瓦形式」によって臨床実習における学生の指導に参加している。

改善のための助言

- ・ 一部の診療科では診療参加型臨床実習が実践されているが、全診療科において診療参加型臨床実習を充実すべきである。
- ・ 学生が医療チームに参加して臨床実習を行うために、電子カルテの記載法を改善すべきである。
- ・ 全学生に対して主要な診療科での臨床実習期間を十分に確保すべきである。
- ・ プライマリ・ケアを臨床実習で経験させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学内臨床実習において、周産期の学習を促進するため、小児科と合わせて産婦人科の診療期間を 3 週間に延長し、合計 6 週間の周産期関連の学習ができるローテーションを確立した。

高山市からの寄附金で設置した寄附講座「地域共創型飛騨高山医療者教育学講座」が中心となり、地域医療の学習を行う選択臨床実習@高山市の構築を開始した。

バーチャル教育のシナリオを拡充すると同時に振り返りの充実をはかり、診療参加型実習の推進を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 5-1 学内臨床実習ローテーション実施表
- ・ 資料 B2. 5-2 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 早期体験実習や地域体験実習により、1年次にすべての学生が学外施設で障が

い者や高齢者などと接する機会がある。

#### 改善のための示唆

- ・ 科学、技術、臨床の進歩に関するカリキュラムの調整、修正を担当教員に一任するのではなく、医学部全体として課題を特定し、教育改善につなげることが望まれる。
- ・ 1年次だけでなく、全学年で段階的に臨床現場での患者診療への参画を深めていくことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床現場への曝露について 2年次で実習させるため、選択テュトリアルにおいて地域医療学を学ぶ選択コースを増やし、結果4名の学生が履修した。

地域医療実習の振り返りにはオンラインシステムを一部利用して、遠隔指導を行ったことでより多くの学生を多地点で一度に指導することが可能となった。同時に ICT を利用した診療や実習についても経験可能となった。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 5-1 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋①）

## 2.6 教育プログラムの構造、構成と教育期間

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 1巡目の評価で助言された水平的統合の促進について、テュトリアルコースを中心に進めている。

#### 改善のための示唆

- ・ 関連する科学・学問領域および課題の水平的統合をさらに推進することが望まれる。
- ・ 基礎医学、行動科学および社会医学と臨床医学の垂直的統合を進めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1年次の地域医療に関する体験実習を前期と後期の部分を継続させる工夫をした。2年次の地域医療研究室配属では1年次で学修したフォトボイスでのレポートを課した。

地域医療には行動科学及び社会医学、臨床医学の視点が含まれており、文部科学

省の補助事業であること及びモデル・コア・カリキュラムでの強調点であることを踏まえ、医療人類学的な視点の授業展開を 1, 2, 4, 5 年次に導入した。本事業は名古屋大学の教員が参画し教育連携を図っている。

教育プログラム評価委員会及びカリキュラム委員会で継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 6-1 カリキュラム体系図

## 2.7 教育プログラム管理

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員に、各学年の学生代表が含まれている。

改善のための助言

- ・ カリキュラム委員会を定例化して十分な役割を果たすべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

各委員会のメンバーの人数を鑑み、教務厚生委員会、カリキュラム委員会、さらにプログラム評価委員会の委員長も合同で教務厚生委員会を開催する体制に改編し、活発な意見を創る体制とした。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 7-1 医学部医学科教務厚生委員会細則

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムの立案と実施に権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

選択臨床実習について指導の方針や課題を周知し、意見交換するため岐阜県内の教育関連病院指導者を招いて選択臨床実習説明会・意見交換会を実施した。学生に

対しては統一された評価表の周知確認を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 7-1 選択臨床実習 F D ・ 担当者説明会
- ・ 資料 Q2. 7-2 選択臨床実習説明資料（学生向け）

## 2.8 臨床実践と医療制度の連携

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター」、「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」、医学部同窓会を通じて情報収集を行っている。

改善のための示唆

- ・ 卒業生や地域、社会の意見を取り入れて、教育プログラムの改良につなげることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

岐阜県北部地域での臨床実習について指導のあり方を同地域の指導者と共有するため、高山市におけるシンポジウムを実施した。

恵那市、下呂市、郡上市、飛騨市の担当者と実習施設やセミナーについての意見交換を行い、一部の市町村ではセミナー、授業を行った。その際には新たな取り組みや学習内容について紹介し、FDの要素を含めるように配慮した。

学外実習協力施設は学内の臨床実技試験の評価者になり、問題点の確認を行っている。

地域医療医学センター、岐阜県医師育成・確保コンソーシアム、医学部同窓会等で得られた地域・社会・卒業生の意見を文書化し、教育プログラム評価委員会やカリキュラム委員会でも情報共有する。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 8-1 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋②）
- ・ 資料 Q2. 8-2 Post-CC OSCE 評価者派遣依頼
- ・ 資料 Q2. 8-3 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムに関する設置要綱
- ・ 資料 Q2. 8-4 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム概要図
- ・ 資料 Q2. 8-5 岐阜県医師育成・確保コンソーシアム組織図
- ・ 資料 Q2. 5-1 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋①）

### 3. 学生の評価

#### 3.1 評価方法

##### 基本的水準

###### 特色ある点

- ・ なし

###### 改善のための助言

- ・ 態度評価を適切に実施すべきである。
- ・ 評価方法や合格基準の詳細をすべてのコースで明示すべきである。
- ・ 評価は出題者以外の専門家によって精密に吟味されるべきである。
- ・ 疑義申し立て制度をすべての評価に導入すべきである。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

履修登録システム、期限についての周知方法及び単位登録の確認について委員会で検討し、学生に周知する。

臨床実習 e ポートフォリオの開発を進め態度などの把握と評価の準備体制を構築し続けている。

6年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定の e-ポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

1・2年次の実習にて単位が取得できなかった場合、仮進級ではなく、翌年も再度履修するように規則を改訂し、態度評価含めた評価について厳格に再教育できる体制を整備した。

選択臨床実習中の態度が悪い 5・6年次の学生に対して適切な指導を行うため、「選択臨床実習に関する要項」（欠席する場合のルール、「不可」等の学生への聴取面談、再教育・再履修や留年に関する規定など）を制定した。また「アンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項」を改訂し、成績判定や進級判定に用いる際の基準を明示した。次年度以降も随時基準の見直しを行っていく。

###### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 1-1 実習の単位未取得者の仮進級判定の改正
- ・ 資料 B3. 1-2 選択臨床実習に関する要項
- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項

##### 質的向上のための水準

###### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ すべての評価において信頼性と妥当性を検証することが望まれる。
- ・ mini-CEX や 360 度評価などの Workplace-based Assessment を導入することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨床現場評価についてオンライン化を推進するため、名古屋大学と合同で e ポートフォリオ開発を推進した。結果トライアルに参加した診療科が増加した。継続して診療科からの意見を反映させ、改善していく予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q3. 1-1 臨床実習における電子ポートフォリオシステムの共同開発と運用

### 3.2 評価と学修との関連

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 卒業試験に統合型試験を導入している。

##### 改善のための助言

- ・ 科目ごとに行われている評価を統轄的に管理して解析するシステムを構築すべきである。
- ・ 学生が経年的、段階的に学修成果を達成していることを保証すべきである。
- ・ 低学年から形成的評価を導入すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の学習環境について認識を調査するため、IR 室と教育プログラム評価委員会が学生アンケートを年度末に実施した。

統合試験についてはあり方や出題基準を見直し、国家試験に準じたもの、過去問利用などを推進し、より学習者の立場にたったものに変更した。

ポートフォリオについては B6 サイズの小型化を実現している。OSCE 評価者については課題数の増加に伴い、養成を計画的に行なうようにしている。

e-ポートフォリオ化を意識し、より各コンピテンシーや実習中の経験が評価・チェックできるひな型に改変し導入した。

臨床実習の評価方法（評価法の作成）については、大項目は、医学部のディプロ

マポリシーに基づいた4領域とし、全診療科統一の評価表（5段階評価）とすることを承認した。小項目は、各診療科で実現可能な評価表を作成することとした。

基本項目と各診療科に特化した内容が評価・チェックできる形式とした。

統合試験は標準的問題作成のためのピアレビュープロセスを強化し、作成システムの導入も図った。臨床実習前及び post OSCE の認定評価者の育成と確保をおこなひ、評価と学習の方法を学内教員に周知している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 2-1 学習環境アンケート
- ・ 資料 Q1. 3-3 小型化した「臨床実習ポートフォリオ」

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学内臨床実習終了時にポートフォリオ審査会を実施し、学外臨床実習を遂行するのに適した知識・判断力・問題解決力が備わっていることを確認している。

改善のための示唆

- ・ 全学年において態度評価を充実させ、評価結果に基づいた適切なフィードバックを行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年間を通じて学生の態度評価を行うことについては、導入予定の e-ポートフォリオにて、アンプロフェッショナルな学生の情報を低学年から蓄積させ、情報共有することとした。

e-ポートフォリオの導入に向けて、名古屋大学と連携して検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

1・2年次の実習にて単位が取得できなかった場合、仮進級ではなく、翌年も再度履修するように規則を改訂し、態度評価含めた評価について厳格に再教育できる体制を整備した。

選択臨床実習中の態度が悪い5・6年次の学生に対して適切な指導を行うため、「選択臨床実習に関する要項」（欠席する場合のルール、「不可」等の学生への聴取面談、再教育・再履修や留年に関する規定など）を制定した。また「アンプロフェッショナルな学生への対応に関する要項」を改訂し、成績判定や進級判定に用いる際の基準を明示した。アンプロフェッショナルな学生の情報を学生にフィードバックできるよう、個人情報に配慮しながら掲示板などを通じて周知できる体制を

整えた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 1-1 実習の単位未取得者の仮進級判定の改正
- ・ 資料 B3. 1-2 選択臨床実習に関する要項
- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項
- ・ 資料 Q3. 1-1 臨床実習における電子ポートフォリオシステムの共同開発と運用

#### 4. 学生

##### 4.1 入学方針と入学選抜

###### 基本的水準

特色ある点

- ・ 岐阜県と継続的に協議し、地域医療を活性化するために地域枠の定員を設定している。
- ・ 推薦（地域枠）の「地域医療コース」では市町村長の推薦を受けた者が応募対象となっている。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

面接試験の方法を一部改訂し、よりアドミッションポリシーに則った学生を選抜した。地域枠推薦に関しては、面接日を一般推薦とは別日程としてよりアドミッションポリシーに適した学生を選抜するようにしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 1-1 令和7年度学校推薦型選抜Ⅱ学生募集要項

###### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 入学決定に対する疑義申し立て制度を採用することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

面接方法の再検討により、入学決定プロセスをより明確にした。

本部入試課と連携し、疑義申し立て制度の策定に向けて検討する。

本部入試課、関係する全学委員会等と連携し、全学制度として疑義申し立て制度を策定する。

## 4.2 学生の受け入れ

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 学生定員増に応じて十分に教育できるカリキュラムの編成を行っている。
- ・ 弾力的な教員採用を行い、学生の定員増においても教育の質が低下しないような人事上の方策を講じている。

#### 改善のための助言

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員採用に関しては、女性比率や多職種連携を意識した人材の採用を行った。

寄附講座の設置を関連機関と連携して行い、IT や高度がん治療等時代に則した医療人材が育成できるように多様性多職種の教員を雇用するシステムを構築している。

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 自治体と協議して入学者の数と資質を定期的に見直している。

#### 改善のための示唆

- ・ なし

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

臨時定員による地域枠受け入れ人数については毎年、岐阜県の担当者と大学教員で制度設計を含めて協議検討している。

## 4.3 学生のカウンセリングと支援

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 指導教員（里親）制度を6年一貫制として取り組んでいる。
- ・ 発達障害の特性を持つ学生への教育をテーマにしたFDが開催されている。

#### 改善のための助言

- ・ 指導教員間で学生支援の格差が大きく、指導教員（里親）制度が実質的に機能するように継続的に改良すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生支援について里親制度を導入しており、定期的な学生と教員のミーティングを実施した。さらに学年ごとの情報共有の方法を構築し、連携や連絡が一元的にかつ継続的に管理できるようにした。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 3-1 医学教育開発研究センター年報 2024 年度（抜粋①）
- ・ 資料 B4. 3-2 里親制度資料

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ なし

##### 改善のための示唆

- ・ 学修に困難を抱える学生に対し、組織的な支援体制を構築し運用することが望まれる。
- ・ 地域枠学生だけでなく、全学生に対してキャリアガイダンスを行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

キャリア支援について授業における指導・ガイダンスを推進するため、新科目の導入を検討し、令和7年度の導入が決定した。

アンプロ学生に関する学内のルールを改編・明文化し、より明確な評価をできる体制を学生や院外施設に周知することに努めている。

学修に困難を抱える学生に対して、（教務厚生委員会が主体となるだけでなく）指導教員（里親）による六年一貫の継続的な支援が行える体制を整える。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 2-3 第2回医学科カリキュラム委員会記録
- ・ 資料 B3. 1-3 アンプロフェッショナルな振る舞いをする学生への対応に関する要項
- ・ 資料 B4. 3-1 医学教育開発研究センター年報 2024 年度（抜粋①）

- ・ 資料 B4. 3-2 里親制度資料

#### 4.4 学生の参加

##### 基本的水準

###### 特色ある点

- ・ カリキュラム委員会に学生が正規の委員として参加している。

###### 改善のための助言

- ・ 使命の策定、教育プログラムの管理、教育プログラムの評価、その他学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参加し、適切に議論に加わるべきである。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生自治会とプログラム評価委員会との交流会を設け、ミーティングを開催した。カリキュラム委員会に続き、令和 4 年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生（または卒業生）1 名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの企画過程だけでなく、自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

教務厚生委員会についても、（二部制にするなど）可能な範囲で学生が参加できる体制を整える。

###### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 4-1 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 B4. 4-2 医学部医学科教育プログラム評価委員会細則

##### 質的向上のための水準

###### 特色ある点

- ・ 「岐阜救急医療学生研究会（GEMs）」などの学生の活動を奨励している。

###### 改善のための示唆

- ・ 学生のボランティア活動や社会的活動を大学が組織的に支援することが望まれる。

###### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の社会的活動について参画を推進するため、初期体験実習と地域体験実習におけるフィールドワークを実施した。すべての 1 年次学生が社会的体験授業に参加した。

学生のサークル活動の報告を学会などで積極的に発信することにより、質の向上を目指すことが可能となった。

学生の公式サークルが地元高校生向けセミナーや地域医療に関する地域住民との交流活動に積極的に参加し、学会等で活動報告を発表している。コロナ禍の収束により、夏山診療所の開設が再開され、社会貢献活動も実施された。

ぎふ医療ケアサークルや奥穂高夏山診療所など地域医療や社会貢献活動への参加を促している。

新たに制定した「岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項」に、社会活動（ボランティアほか社会貢献）についての基準を設けている。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q4. 4-1 岐阜大学医学部における学生表彰に関する要項

## 5. 教員

### 5.1 募集と選抜方針

#### 基本的水準

##### 特色ある点

- ・ 寄附講座を増設するなどして教員の確保している。

##### 改善のための助言

- ・ 基礎医学、行動科学、社会医学、臨床医学の教員の適正数をバランスに配慮しつつ追求すべきである。
- ・ すべての教員の募集と選抜において、教育業績の判定水準を明示すべきである。

##### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教授を含め、女性教員の登用を積極的に行っている。

令和6年度は、若手教員を20名採用し、うち6名は女性教員であった。時代背景も考慮して、今後さらに充足を図る。

寄附講座においても自治体と協力した新たな教育モデルを提供し、女性教員や若手教員が活躍している。

企業等からの寄附金により18の寄附講座が設置され、35名の教員を雇用し、医療各分野で活躍している。(R7.3.31現在)

教員採用時に教育担当部分、入試科目担当などをチェックしている。

社会医学特に文化人類学の名古屋大学の教員と協働する連絡体制を作ることができ、教員不足・専門家不足を補うことができる環境にした。実際に4年次授業ライフサイクルなどで協働的に授業を遂行している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 1-1 医学系研究科概要（抜粋）

## 5.2 教員の活動と能力開発

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 「関門評価」により、教員のモチベーションを高めていることは評価できる。
- ・ カナダ マギル大学における FD に臨床指導医を継続的に派遣し、教育能力の開発に努めていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ FD などを通じ、すべての教員にカリキュラム全体の理解を促すべきである。
- ・ 教員の教育活動を促進するために、教育活動の評価基準を明示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

マギル大学（カナダ）から外科指導医を招聘し、FD 及び教育関連施設の実習視察を実施しフィードバックを得た。

南フロリダ大学（米国）の視察を行い、教育活動の質向上の改革のための情報収集を行った。

OSCE 試験の公的化、評価ステーションの増加に伴い教員の参加回数や外部参加の有無など教員の評価項目に追加した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-1 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋③）
- ・ 資料 B5. 2-2 マギル大学教授講演会
- ・ 資料 B5. 2-3 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋④）
- ・ 資料 B5. 2-4 貢献度実績・自己評価表

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ カリキュラムのすべての項目について、教員と学生の比率を十分に考慮することが望まれる。

- ・ 教員の昇進を審議する上での教育実績の評価対象を教員に明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

OSCE 試験の公的化、評価ステーションの増加に伴い教員の参加回数や外部参加の有無など教員の評価項目に追加した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-4 貢献度実績・自己評価表

## 6. 教育資源

### 6.1 施設・設備

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された講義室の狭隘に対し、改修して収容人員増が行われている。

改善のための助言

- ・ 安全な学修環境を担保するために、医療安全講習会や院内感染講習会への学生の参加を促すべきである。
- ・ 学生定員数を考慮して、解剖実習施設をさらに整備すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1 年次の感染対策指導を徹底するため、初期体験実習における指導を実技指導含めて実施した。その結果、全員への指導を達成し、安全な実習が可能となった。

感染症実習を行なえるシミュレーターやマスクテスト装置を購入した。

令和 4 年度から、感染症学の授業 8 コマ程度を臨床推論の授業群に取り入れ、感染症の症例に基づき臨床推論を演習できる科目「臨床推論」に改編した。令和 5 年度以降もその授業形式を続けており感染症の学習と演習ができる授業編成で継続している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 1-1 授業案内 2024\_初期体験実習

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ デジタルトランスフォーメーション時代に見合うよう、学修法のデジタル化、シミュレーション教育の充実を進めている。

#### 改善のための示唆

- ・ 学生入学定員増加と 2004 年のキャンパス移転後の変化に対応して学修支援施設・設備の改善が行われているが、今後もニーズに対応してさらに整備・拡充を進めることが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

講義室に遠隔授業やオンライン授業がサテライトで行えるシステムが導入され、稼働を開始した。さらに特任助教、教務補佐員、事務補佐員の雇用により、シミュレーションセンターの整備を行った。その結果、バーチャルシミュレーターによる実習も一部の診療科で段階的に開始された。

オンラインチュートリアルを継続しつつ、より効果的な学習が可能になるよう、Teams による資料配布などに各講座で努力をしている。

その結果、バーチャルシミュレーターによる実習も一部の診療科で段階的に開始され、授業の発展化をすすめ臨床推論などの科目で 4 年生に授業を導入することができた。そのほか手技用のシミュレーターの整備により、感染対策手技や一般手技に関する理解が深まり、臨床実習が充実した。

また、学修支援施設・設備の体系的なニーズ評価のために、国際的に活用されている学習環境調査表である調査票の開発・妥当性検証プロジェクトを開始し、パイロット調査を実施した。次年度以降、継続的に実施する予定である。

## 6.2 臨床実習の資源

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 1 巡目の評価で助言された学生の臨床経験症例をモニタするために、2016 年度から臨床実習ポートフォリオを導入している。

#### 改善のための助言

- ・ 学生が経験する患者数と疾患カテゴリーを確実に把握し、国際標準の臨床経験を量的にも質的にも達成できるよう、臨床実習施設、指導体制をさらに強化すべきである。
- ・ 学生がプライマリ・ケアを十分に経験できるよう、外来診療、初期診療が経験できる臨床実習施設の整備をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生の経験する患者数とその内容の把握についてオンライン化したポートフォリオを導入するため、名古屋大学と合同開発を推進した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q3. 1-1 臨床実習における電子ポートフォリオシステムの共同開発と運用

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学内外の臨床実習施設の受け入れを検討し、選定している。

改善のための示唆

- ・ 医療を受ける患者や地域住民の要請に応じているかどうかの視点に基づいた臨床実習施設の評価、整備、改善をさらに進めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

6年生の選択臨床実習を受け入れる施設に対して、評価方法などのFDを実施するとともに、その後のOSCE評価にも参画し、フィードバックを行った。その結果を次年度以降の指導に活かすよう周知した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 7-1 選択臨床実習FD・担当者説明会
- ・ 資料 Q2. 8-2 Post-CC OSCE 評価者派遣依頼

## 6.3 情報通信技術

### 基本的水準

特色ある点

- ・ 自己学習のための情報通信技術活用とシステム提供が進められている。
- ・ 「インターネットテュートリアル」で他学部学生や他大学医学部学生とともにPBLスタイルでのWeb授業を行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 電子カルテに関する指針は明記されているが、それ以外の情報通信技術についても指針整備を進めるべきである。
- ・ 情報通信技術を用いた自己学習の実態とアウトカム評価の検討を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

1年次の医療体験実習のグループ討論においてもLMSを積極的に利用した。プロダクトやレポートの提出も基本オンラインとした。

さらなるITリテラシー向上のために、令和7年度からは、入学時の初年次セミナーで医学教育モデル・コア・カリキュラムに準じてMicrosoft Teams等の活用の関する参加型オリエンテーションを実施する予定である。

COVID-19の5類移行後も、クリクラ実習中における論文抄読会をZOOMにて継続し、録画、アーカイブし、他の学生の学習に役立てるとともに、脳神経内科SNSに学生の同意を得た上で一般への公開を行っている。また、この動画に対する視聴や意見も多く、学生の励みになっている。

### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 1巡目の改善の示唆に対応して、学内LANやeラーニング教材などを活用した「インターネットチュートリアル」、PBL、反転授業などを実施している。
- ・ 学生に対する電子カルテ運用方針を定め、不正使用に係る処分方針も定めている。

改善のための示唆

- ・ 学生が真の診療参加型臨床実習を行えるように電子カルテ記載システムを改良することが望まれる。
- ・ 臨床実習ポートフォリオの電子化や一元管理を進めるなどして、個々の学生の成長をフォローできる仕組みを構築することが期待される。
- ・ 保健医療提供システムへのアクセス体制を構築することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

eポートフォリオを名古屋大学と合同開発中でトライアル参加の診療所が増加した。学内においてはLANアクセスが不可能であった教室、実習室にWi-Fiを導入し、電子化促進の整備をした。

臨床実習eポートフォリオについては、既存のシステムを活用する方向で検討を進めている。

ポートフォリオの小型化、電子化に伴い利用度が高まり、評価や情報の共有の改善が期待される。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q3. 1-1 臨床実習における電子ポートフォリオシステムの共同開発と運用

## 6.4 医学研究と学識

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ カリキュラムの作成については、それぞれの科目の専門家が関連する分野と連携しながら統合型カリキュラムを構築している。

#### 改善のための助言

- ・ 医学研究が教育にどのように活用されているか解析し、教育プログラムの改善につなげるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プロジェクト基盤型学習カリキュラムの創設を決定した。令和 7 年度は 3 年生にトライアル開始の予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 3-7 第 1 回カリキュラム改革検討WGメモ

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ 「テュトリアル選択配属（研究室配属）」、「学生研究員制度」、「MD-PhD プログラム」などで研究マインドの涵養を行っている。

#### 改善のための示唆

- ・ 「MD-PhD プログラム」のさらなる拡充について検討することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

学生研究員を採用して、早期から研究マインドを醸成している。学生研究員や研究室配属での研究テーマを国内外の学会等で発表する学生が増え、リサーチマインド醸成されている。一部の学生は論文化しており、雑誌掲載されている。学生研究員は年々増加傾向にある。

学生の研究マインドの涵養と、さらには大学院進学へとつながるよう、一連の研究支援システムの充実を図る。優れた学生は表彰制度の対象となるようにした。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q6. 4-1 学生研究員募集要項

## 6.5 教育専門家

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ 医学教育共同利用拠点としての「医学教育開発研究センター (MEDC)」に教職員が数多く配属され、全国的に医学教育の改善に向けた活動を活発に展開していることは高く評価できる。
- ・ 「MEDC」が全国の医学教育関係者に対して多くのセミナー、ワークショップを開催して教育の向上に貢献していることは高く評価できる。
- ・ オンライン授業対策チームと「MEDC」が協力して CyberFD「医学教育 5min」で教育スキルの周知を行っていることは高く評価できる。

#### 改善のための助言

- ・ 岐阜大学医学部の教職員が、カリキュラム開発、教育技法および評価方法の開発などを行うために「MEDC」をさらに活用すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学部 FD に、MEDC スターターキットを導入し eFD の推進を進めている。学内 FD に導入し履修率 70% 越えを達成した。

MEDC の連携寄附講座として地域共創型飛騨高山医療者教育学講座を設置し、岐阜県高山市を中心とした地域での FD 活動を強化するとともに、同講座教員による学内教育活動も活性化された。

本学の卒前卒後のシームレスな医学教育や最新の医療者教育の概念や知見を MEDC の教員により、紹介され導入されている。さらに MEDC が主催する様々なセミナーに教員が参加できる体制となっている。

様々な改革ワーキンググループに MEDC 教員が参画している。

学内においても教育に関する相談窓口となっている。

医師育成推進センターの教員も MEDC の教員にアドバイスを依頼して、研修プログラムの改革を行っている。

医療者教育医学修士課程の授業を一部教員に公開し情報共有できる体制を作りつつある。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 5-1 医学教育開発研究センター年報 2024 年度 (抜粋②)
- ・ 資料 B2. 5-2 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績

## 質的向上のための水準

### 特色ある点

- ・ カナダ マギル大学への指導医研修派遣や、海外客員教授や招聘教授によるセミナーなどを通じて最新の医学教育専門知識の導入を行っていることは高く評価できる。
- ・ 「MEDC」が国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修の実務を担って事務職員の教育活動を支援していることは高く評価できる。

### 改善のための示唆

- ・ なし

### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

マギル大学からの招聘教員が学内 FD に協力し、外科教育に新たな考え方を導入した。MEDC の教育貢献として、初めて医療者教育修士課程の医学専門家が学内でも養成された。

### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B5. 2-2 マギル大学教授講演会

## 6.6 教育の交流

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ カナダ マギル大学との大学間協定、ハワイ大学および南フロリダ大学との協定を締結し、海外実習の単位認定を行うなど、海外大学と国際的な交流を行っていることは評価できる。
- ・ 「MEDC」は医学教育共同利用拠点として全国の医学部・医科大学と連携を図っている。

#### 改善のための助言

- ・ 東海国立大学機構など国内教育機関において履修単位の互換制度を検討すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

コロナ禍が収束し、中断していたマギル大学及び南フロリダ大学との教育連携事業が再開された。次年度も継続し、教員の往来が決定している。

東海国立大学医学部連携ワーキンググループを設立し、1～2 か月に一度会議を設け意見交換をする体制を整えた。

東海国立大学機構の医学部連携ワーキンググループでの意見交換を実施し、岐阜大学と名古屋大学の1年生が合同で参加する白熱ディスカッション「～名大&岐大合同授業～」を継続的に実施している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B6. 6-1 岐阜大学・名古屋大学連携授業
- ・ 資料 B5. 2-1 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋③）
- ・ 資料 B5. 2-2 マギル大学教授講演会
- ・ 資料 B5. 2-3 地域共創型飛騨高山医療者教育学講座活動実績（抜粋④）
- ・ 資料 Q2. 2-1 東海国立大学連携WG担当者一覧

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学生および教員の海外機関への派遣に際し、ガイドンスブックを作成したり、助成を行うなど、医学部として支援している。

改善のための示唆

- ・ 臨床実習以外の国内外交流プログラムについても拡充させることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

海外臨床実習について協定大学と交流するため、実習派遣を実施した。海外からの臨床実習参加希望を受け付けた。CAMLsシミュレーションセンター提携に附属病院を追加する方針で調整しており、次年度4月に関係者が来日予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q6. 6-1 海外で臨床実習を受ける学生の資格条件
- ・ 資料 Q6. 6-2 短期特定課題受託研修生受入実績

## 7. 教育プログラム評価

### 7.1 教育プログラムのモニタと評価

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 2016年度に医学教育 IR 室が設置され、活動を開始している。

#### 改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を独立して実施する組織を速やかに設置し、活動を開始すべきである。
- ・ カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩について教育プログラムの評価を実施し、評価の結果をカリキュラムに確実に反映すべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会において、テュートリアル教育の運営に関する教員へのアンケート調査、学生からのアンケート結果の評価などを実施した。その結果、次年度以降のカリキュラム改変の議論の基盤を構築した。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 3-6 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 B1. 4-1 学生の自主的アンケート調査 (テュートリアルコアタイム)

#### 質的向上のための水準

##### 特色ある点

- ・ 学修成果到達に関する「全卒業生アンケート」を実施している。

#### 改善のための示唆

- ・ 教育方法、評価方法、臨床実習の内容など、カリキュラムの特定の構成要素についてプログラム評価を行うことが望まれる。
- ・ 社会的責任について、それに関連するデータを収集してプログラム評価を行うことが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

テュートリアルの授業科目について、アンケート調査結果、テュートリアルを履修した学生の臨床実習評価との関連からプログラム評価を実施した。その解析結果を用いて、次年度以降のプロジェクト基盤型学習トライアル運営を開始することとなった。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q7. 1-1 IR 解析レポート
- ・ 資料 Q1. 3-6 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 B1. 4-1 学生の自主的アンケート調査 (テュートリアルコアタイム)
- ・ 資料 Q1. 3-7 第 1 回カリキュラム改革検討WGメモ

## 7.2 教員と学生からのフィードバック

### 基本的水準

#### 特色ある点

- ・ テュートリアル教育について教職員ならびに学生に系統的なアンケートが実施され改変が行われた。

#### 改善のための助言

- ・ 教員と学生から教育プログラム全体についてのフィードバックを系統的に求めるべきである。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教員と学生の双方からテュートリアル教育についてのフィードバックをアンケートにより求め、その結果を教育プログラム評価委員会、カリキュラム委員会等の関連委員会で協議し、プロジェクト基盤型学習のトライアル実施に繋げた。

学生自治会との懇談会を開催し意見を吸収するよう努めた。

プログラム評価委員会を設立した。テュートリアル教育の評価について再検討する予定である。

#### 改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1. 3-6 第 1 回医学科教育プログラム評価委員会記録
- ・ 資料 Q1. 3-7 第 1 回カリキュラム改革検討WGメモ
- ・ 資料 B1. 4-1 学生の自主的アンケート調査 (テュートリアルコアタイム)

### 質的向上のための水準

#### 特色ある点

- ・ なし

#### 改善のための示唆

- ・ 教育プログラム全体についてフィードバックの結果を利用して、教育プログラムを開発することが望まれる。

#### 関連する教育活動、改善内容や今後の計画

医学科内の学習環境について学生からのフィードバックを得るため、学習環境アンケート (日本語版 Dundee Ready Education Environment Measure) のパイロット調査を実施した。その結果、本学医学科に特化した調査票の開発をすることができ

た。次年度以降も継続的に、学生からのフィードバックをその調査票を使用して得る予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B3. 2-1 学習環境アンケート

### 7.3 学生と卒業生の実績

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 医師国家試験の成績と学生の実績との関連について、医学教育 IR 室によって種々のデータ解析が行われている。

改善のための助言

- ・ 使命と意図した学修成果に関して、学生の実績を分析すべきである。
- ・ 進路を含め卒業後の実績について、さらにデータを収集すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

卒業生の意向などを聴取するための IR アンケートを名古屋大学と合同で実施しデータ収集することができた。両大学の類似点、相違点も見いだされ、次年度以降の改善を促進させる根拠となった。

IR 室データより、地域枠入学者の成績は一般入学者と比較して有意に良好であり、地域枠入学定員の維持につながっている。

地域医療医学センターにおいて地域医療に貢献する人材育成の使命に IR 室データを活用し、アドバイスしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B7. 3-1 卒業時機構共通アンケート

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 学生の実績を評価し、入試制度の変更が行われた。

改善のための助言

- ・ 背景と状況ならびに入学時成績に関して、卒業生の実績を系統的に調査し分析することが望まれる。
- ・ 学生の実績を系統的に分析し、カリキュラム立案ならびに学生カウンセリング

について責任のある委員会にフィードバックすることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

入試制度変更により増加した地域卒学生の入学後の成績についての縦断的評価をIR室により実施する予定である。

卒業生のデータを反映した入試改革を行った。後期試験を廃止し、推薦入試の比率を上昇させた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q7. 3-1 入学試験委員会報告（入学者選抜の変更）

#### 7.4 教育の関係者の関与

##### 基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 教育プログラム評価を行う組織を設置し、学生や教職員など教育に関わる主要な構成者の参画を求めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

プログラム評価委員会を運営し委員会開催時以外にも密にコミュニケーションをとり、機能するよう努めている。学生自治会との交流を設けることが出来た。同窓会とのコンタクトも継続して行った。

##### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 医学教育 IR室における解析結果を学会等で報告している。

改善のための示唆

- ・ 広い範囲の教育の関係者に、カリキュラムに対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教育プログラム評価委員会に、学外有識者が参画し多角的なフィードバックを受けられる体制を構築した。

カリキュラム委員会に関連病院の指導医等を加え、カリキュラムに対する意見を求める予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B4. 4-2 医学部医学科教育プログラム評価委員会細則

## 8. 統轄および管理運営

### 8.1 統轄

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ 教授会のもと企画委員会が設置され、教学に関わるカリキュラム委員会、教務厚生委員会、入試委員会を統轄している。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

教務厚生委員会に、教育プログラム評価委員会委員長が参画することとなった。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 B2. 7-1 医学部医学科教務厚生委員会細則

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための示唆

- ・ 教学に関わる各委員会に、学生、教職員およびその他の教育の関係者の意見を反映させる体制を整えることが望まれる。
- ・ 統轄業務とその決定事項について、より透明性を高めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

カリキュラム委員会に続き、令和 4 年度に新たに立ち上げた「教育プログラム評価委員会」に医学科学生（または卒業生）1名を正規の構成員とすることとし、教育プログラムの自己点検評価の過程においても彼らからの意見や提案を聴取できる体制を整えた。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q8. 1-1 医学部医学科カリキュラム委員会細則
- ・ 資料 B4. 4-2 医学部医学科教育プログラム評価委員会細則

#### 8.4 事務と運営

##### 基本的水準

特色ある点

- ・ 「医学教育開発研究センター (MEDC)」が e-ラーニングで学修できる「医療者教育スターターキット」を開発し、教職員に対して教学関連の活動を支援していることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

東海国立大学機構となり、名古屋大学との教育連携交流、OSCE 事務補助の相互交流を開始している。

東海国立大学機構医学部教育連携ワーキンググループが隔月で開催されており、科目連携・OSCE 連携・ICT 利活用・IR 活動・地域医療学・アンプロフェSSIONナル学生の対応について意見交換の場を設けている。

医療者教育スターターキットの周知と学務係への部分的導入を進めた。

自己学習用の e-learning 医療者教育スターターキットの教職員全体への導入が期待される。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 2-1 東海国立大学連携WG担当者一覧
- ・ 資料 B6. 5-1 医学教育開発研究センター年報 2024 年度 (抜粋②)

#### 8.5 保健医療部門との交流

##### 基本的水準

特色ある点

- ・ 「地域医療医学センター (CRM)」が設置され、地域との連携活動を活発に行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療医学センター内のコンソーシアム事務局において毎月第 2 水曜日午後に岐阜県庁担当者と定期ミーティングにて情報共有している。加えて、地域医療施設の責任者及び市町村担当者や県内の自治医科大学の関係者とも連携して、教育活動を展開している。

#### 質的向上のための水準

特色ある点

- ・ 「岐阜県医師育成・確保コンソーシアム」を通じて保健医療関連部門のパートナーとの協働を構築している。

改善のための示唆

- ・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

地域医療関連の FD や指導医講習会を他機関と協力して実施している。

地域医療医学センター内にコンソーシアム事務局が設置され、各医療施設や行政機関と連携を密に運営している。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q2. 8-3 岐阜県医師育成・確保コンソーシアムに関する設置要綱
- ・ 資料 Q8. 5-1 指導医講習修了者のレベルアップ事業
- ・ 資料 Q8. 5-2 第 27 回臨床研修指導医講習会
- ・ 資料 Q8. 5-3 第 28 回臨床研修指導医講習会

### 9. 継続的改良

#### 基本的水準

特色ある点

- ・ なし

改善のための助言

- ・ 2015 年度の医学教育分野別評価受審の際に提出された「自己点検評価報告書」に記載されている「C. 現状への対応」、「D. 改善に向けた計画」が今回の「自己点検評価書」においても同じ内容が随所で繰り返されており、指摘された課題

について十分な対応が行われていない。継続的改良を進めるために、可及的速やかに改善を進めるべきである。

- ・ 教務厚生委員会、カリキュラム委員会とは独立した教育プログラム評価を行う体制を構築し、自己点検評価結果に基づく継続的改良を進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

本学カリキュラムの中心をなしているテュートリアルに対する意識調査を各部門の教授に行った。調査結果を活用したカリキュラム改革に着手した。

改善状況を示す根拠資料

- ・ 資料 Q1.3-6 第1回医学科教育プログラム評価委員会記録